

第5回 知識共有コミュニティワークショップ報告

A Report of the fifth "Knowledge-share" community workshop in Tomonoura

田代光輝(Mitsuteru TASHIRO)¹折田 明子 (Akiko ORITA)・²

¹ニフティ株式会社／多摩大学情報社会学研究所 ²慶應義塾大学政策・メディア研究科

1. はじめに

本ワークショップの開催のきっかけは、国立情報学研究所にて研究者向けに提供されている「Yahoo!知恵袋」のデータを活用している研究を発掘し、多分野の研究者間の交流や新たな協働を促進することであった。2008年にヤフー株式会社および情報社会学会との共催にて開催を開始して以来、本年は5回目の開催となる。本年は、プログラム委員長を折田明子（慶應義塾大学）、実行委員長を田代光輝（ニフティ株式会社／多摩大学情報社会学研究所）が担当した。

2009年に開催した第2回以降、「Yahoo!知恵袋」のデータを活用した研究に加え、比較研究や社会心理学的分析など、知識共有コミュニティという概念全般に関わるユニークな研究を対象としている。2010年に開催した第3回では、企業によるオープンデータというテーマで、龍谷大学において初の関西圏での開催を実現し、かつ同日に東京・品川で開催された楽天研究開発シンポジウムと、インターネット中継による共同セッションを実施した。

2011年に開催された第4回では、東日本大震災をふまえ、災害時に情報技術やコミュニティが果たすことのできた役割やその限界を振り返るとともに、今後、非常時を乗り越えるための知識共有および情報共有のあり方について議論の機会を作ることを目的とした

第5回となる今回は、上記に加えてニフティから提供されたパソコン通信データの提供による研究を合わせ、15本の論文が集まった。場所は広島市立大学大学院の難波英嗣先生のコーディネートにより、広島県の鞆の浦にて、招待講演と研究発表を鞆の浦公民館にて、ディスカッションを宿泊先である景勝館にて行った。

2. プログラム構成

当日のプログラムは、

- (1) 招待講演
- (2) 研究発表（査読論文・一般論文）
- (3) ディスカッション

によって構成した。日中のセッションは鞆の浦公民館で行い、夕刻以降は宿泊先の景勝館にてディスカッションセッションをもった。

また、本ワークショップの様子は、動画配信サービスUstreamによる中継を行った。

3. 招待講演

招待講演：大向一輝氏（国立情報学研究所 准教授）

「知識インフラとしてのLinked Open Data」

招待講演は、国立情報学研究所の大向一輝准教授より「知識インフラとしてのLinked Open Data」というテーマでご講演いただいた。

まずデータの保存について、保存媒体の劣化および保存媒体変化などにより復元が難しくなっているデータがあることが紹介された。例えばフロッピーディスクやMOドライブ等、現在では購入が難しいメディアも出てきている、などだ。

では、そもそも「保存するとは」何なのか。それは時間・空間を超えて多くの人に使われ続けるようにすること＝共有することであるとした。共有のために人間が使うためのHTMLでの提供や、機械が使うためのAPIでの提

供などがある。

さらにデータの価値を高めるためのLinked Open Dataの紹介があった。これは意味のウェブ（網）化である。例えば夏目漱石に対して「坊ちゃん」は作品「正岡子規」は友人「松山」は在住地などという関係性を網化することである。具体的には主語・述語・目的語で記述されるRDFで連結し、意味の価値を増やす取り組みをしている。

現在、美術館を中心に進められている取り組みを紹介があった他、今後の課題としての「生データとの格闘」や「メタデータを作るためのワークフロー」「メタデータの流通・2次利用」などの紹介があった。



【写真1】大向准教授による招待講演

4. 研究発表

初日は、twitter 関連と Data 関連および wiki 関連の査読論文および一般論文による研究発表セッションを、2日目はロコミ・ボランティア関連およびパソコン通信関連の査読論文および一般論文による研究発表セッションを行った。

特筆すべきは、高橋久尚さんによる「ニフティサブデータの分析」の発表である。当初はニコニコ生放送を利用したネット中継での発表を予定したが、当日高橋さんが来場できることとなり、急きょ“事前に撮影した動画を本人が流す”という形式をとった。動画での説明はわかりやすく、また時間通りに終わる、という副次的な効果も見られた。

【初日】

4-1 研究発表セッション I (Twitter 関連) 座長：渡辺靖彦 (龍谷大学)

1) 「マイクロブログにおける投稿活動に着目したユーザプロファイリング」 山口 裕太郎・山本 修平・水沼友宏 (筑波大学) ・島田 諭 (法政大学) ・池内淳・佐藤 哲司 (筑波大学)

2) 「Twitter におけるバースト状態に関する実証的研究」 水沼友宏・山本修平・池内 淳・山口裕太郎 (筑波大学) ・島田 諭 (法政大学) ・佐藤哲司 (筑波大学)

4-2 研究発表セッション II (Data 関連) 座長：難波英嗣 (広島市立大学)

3) 「Yahoo!知恵袋の回答の末尾にある不読符号列の分析」 中嶋邦裕・梅本顕嗣・西村涼・渡辺靖彦・岡田至弘・久保 圭 (龍谷大学)

4) 「コミュニティ QA における質問・回答間の依存関係の評価と観点の自動抽出の検討」 香川雄一・佐藤哲司 (筑波大学)

5) 「Q&A サイトでネガティブな意見を繰り返すユーザの回答への評価についての調査」 南口勝志・梅本顕嗣・西村 涼・渡辺 靖彦・岡田至弘 (龍谷大学)

4-3 研究発表セッション III (Wiki 関連) 座長: 田代光輝 (ニフティ/多摩大学)

6) 「日本語・韓国語版 Wikipedia の議論ページの分析に基づくオンライン 議論のモデル化に対する研究」 朱成敏 (総合研究大学院大学)・武田英明 (国立情報学研究所)

7) 「スタックオーバーフローのアーキテクチャにみる Wiki 型 Q&A サイトの可能性」 杉本達應 (福山大学)

【2日目】

4-4 研究発表セッション IV (クチコミ・ボランティア) 座長: 折田明子 (慶應義塾大学)

8) 「プラットフォームにおける認証制度がクチコミに与える影響に関する研究」 吉見憲二 (早稲田医科大学)

9) 「ソーシャルメディア上でのボランティア言説 —「ボランティア」を含むツイートを手がかりとして—」 吉田達 (新潟大学)

10) 「東日本大震災発生期のツイッターにおける地域発信情報の分析」 高久雅生 (物質・材料研究機構)・江草由佳 (国立教育政策研究所)

4-5 研究発表セッション V (パソコン通信) 座長: 岡本真 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社)

11) 「NIFTY-Serve におけるフォーラムデータの整形」 田代光輝・鈴木隆一・松井くにお (ニフティ株式会社)・宇田周平・折田明子 (慶應義塾大学) 三浦麻子 (関西学院大学)・森尾博昭 (関西大学)

12) 「NIFTY-Serve におけるフォーラムデータの分析」 成澤克麻 (東北大学)・比戸将平・海野 裕也 (株式会社 PFI) 松井くにお・鈴木隆一・田代光輝 (ニフティ株式会社)・丸山 宏 (統計数理研究所)

13) 「ニフティサーバデータの分析」 高橋久尚・松井知子・丸山 宏 (統計数理研究所)・松井くにお・鈴木隆一・田代光輝 (ニフティ株式会社)

14) 「オンライン・コミュニティにおける社会的距離の分析: ニフティサーバの掲示板ログを用いた予備的分析」 森尾 博昭 (関西大学)・三浦麻子 (関西学院大学)・折田明子・宇田周平 (慶應義塾大学)・田代光輝・鈴木隆一・松井くにお (ニフティ株式会社)

15) 「オンライン・コミュニティで「社会知」は醸成されたか: NIFTY-Serve 心理学 フォーラムの事例研究」 三浦麻子 (関西学院大学)・森尾博昭 (関西大学)・折田明子・宇田周平 (慶應義塾大学)・松井くにお・鈴木隆一・田代光輝 (ニフティ株式会社)



【写真2】発表の様様

5. 夜のディスカッションセッション

1日目の夕食後、ディスカッションセッションの時間を設けた。ディスカッションでは、ワークショップの開催形態、論文の形態、今後の運営体制について話し合われた。

開催形態については、現在のような研究発表だけではなく、参加者皆が手を動かしアイデアを出すワークショップ形式の提案があり、次回からの実施に向けて準備することとなった。

論文の形態については、査読論文の位置づけが曖昧であることの問題点が指摘された一方で、複合領域的な論文を発掘し、いい意味での「ゆるさ」を残すにはどうすべきかと話し合われた。ジャーナル推薦論文になってから初めてフォーマルな「査読」をかけるという形などでもよいのではないかという意見もあった。

体制については、プログラム委員と運営委員の役割分担を明確にし、少しでも貢献する人は積極的に巻き込むために、いろいろな分野の方に声をかけていこうという事になった。

6. まとめ

第5回となる本ワークショップにおいては、公開されたデータの活用についてという大きなテーマに対して、様々な分野の研究発表が行われた。

本ワークショップはYahoo知恵袋の解析をきっかけに、SNSやtwitterやwiki、またパソコン通信などのデータ分析にまで広がっており、今後より発展させるために実データを使ったハッカソンのようなワークショップの開催を目指すこととなった。

また2回目となる合宿形式については、内容についてじっくりと議論をすることができたと好評である。温泉につかりながらゆっくり話すことで、人と人のつながりも深まったようであり、今後も合宿形式での開催を望む声が多数であった。

5回の積み重ねで得た知見をさらに発展できるよう次回の開催にむけて関係する多くの方に声をかけていき、“ハッカソンのようなワークショップ”の成功を目指したい。



【写真3】参加者による記念撮影

7. 謝辞

開催にあたっては、広島市立大学大学院の難波英嗣先生および難波研究室の皆様にご多大なご協力をいただきました。文末となりますがお礼を申し上げます。